

epoch

エポック No117

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

令和3(2021)年5月 発行

第13期第3回 概要報告

3月30日、第3回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。今期のテーマに向けた『コロナ禍において生涯学習はどうあるとよいのか』について、他区の状況も参考にしながら各委員の考えを述べていただきました。

つぎに、開校5年を経た「ちよだ生涯学習カレッジ」の現状と今後のあり方として、事務局の説明、卒業生有志による生涯学習推進委員会議への提案が行われました。

以下、概要をお伝えいたします。

I 今期のテーマについて

◇◆前回までのまとめ

実際の学びや体験の共有、リアルが完全になくなってしまふのは、生涯学習の本来の姿から外れてしまふ。リアルと遠隔の両立のあり方、情報格差の是正に向けたフォローのしかたが検討課題になるのではないか。

【意見交換の主な内容】

主に、

- ① 講座・イベント・区民大学などの事業そのもの、
 - ② ICT活用と情報格差のサポートについて
- 活発な意見交換が行われました。

① 講座・イベント・区民大学などの事業そのものについて

- 昨年度の文化芸術フェスティバルは作品展を除いて中止だった。感染予防対策など、どうしたら実施できるのかがわかってきている。40年間蓄積してきたノウハウがあるのだが、あまり開催しない期間が長くなるとノウハウそのものが分からなくなるのではないか。
- コロナの影響を受けることなく健康でのんびり暮らしたい高齢者の意識について、人生百年時代においてさまざまな道具を使えるようになるなど、ここは高齢者も変わらなければならないのではないか。意識改革を挙げたい。
- 学校も同様であるが、昨年はいろいろな状況を見て進めた。令和3年度は、コロナ禍でも少しずつ、何かを前へ進めるということをやっていかないとならないのかなど。またそれが一番の課題となっている。
- ただ対面、ただオンライン、ではなく、内容によっては併用しながら柔軟性を持って実施する形がそれぞれの活動にあってもよいのではないか。



② ICT活用と情報格差の課題～サポートについて

- タブレット、パソコンなどがコロナ禍の生涯学習の中心になり、そこに教育が必要となってくるのではないかと。わかる人はわかるが、わからない人はわからないままとなる。
- 「高齢者の方に対して若い人が一対一で、機器の使い方だけでなく、スマホ決済のしかたまで教え、ICT機器使用の面白みを感じ、1回のみでなくこれからも継続したいと望んでいる」との記事を見た。『ちよカレ』で学んだ人や若い人たちがこのような手助けをする時が、今と一致しているのではないかと。
- パソコンを触ったことがない人は、パソコンを日常的に使っている人にとれば Zoom の使い方への考えが違ふと思う。
- 生涯学習で高齢者層をターゲットにするのであれば、その底上げをどのようにするか、まず先に手をつける必要があるのではないかと。「ちよカレ」の人材活用が機能的に目指すところではないかと。
- 「ちよカレ」の人材をICT活用の指導や仲介の役割としても期待できないだろうか。機器が違ふと説明する側はわかるが、受け取る側がわからない。1対1の支援が必要となる。
- 会いたい、話したいなどの興味、関心、必要性などの動機があつて、スマホやパソコンに触れて扱ふことができるようになるのではないかと。
- スマホ講座などは各出張所など、近所の高齢者の方の対話生まれるのではないかと。スマホに関連して対話したり、会つたりできることも、ひとつの目安と考えてよいのではないかと。
- 区内老人会等、出張所単位で行ふのはどうか。Zoomで出張所をつなげるなどができれば会うことができる。ワクチン接種が1つの根拠になると思うが、換気に気をつけ、密にならないように、出て来ても大丈夫ですよ、と打ち出さないと、いつまでも出てこなく引きこもってしまう危険性をはらんでいるのではないかと。
- ICTに関して、メンターのシステムを構築する。社会教育士養成の施設実習に取り入れてはどうか。ICT機器の取り扱いに非常に長けた学生を高齢者のメンターとして活用すれば、学生もやりがいがあり、高齢者にとつてもよいのではないかと。
- ICTの活用が進めば進むほど、問題になってくるのは、人間関係をどう構築していくかである。対面授業は合宿も含めて交流の場の仕掛けではないかと思う。対面のよい面、ICTのよい面をうまく組み合わせればよいのかと感じる。
- ICT関連の情報をどこで知つたらよいか、どこで教育を受けられ、サポートしてもらえるのか、各所ごとで行つてはいるが横断的に総合的に知ることができるよう、ホームページなどを活用できないかと。

まとめ



- ◆近隣を拠点とするなど人間関係の構築を含め対面と遠隔（ICT）のよいところを組み合わせる。
- ◇高齢者の方などICT機器に触れてこなかった方へ、活用の前段階からの1対1のサポート体制が必要となる。
- ◆メンターなどのサポートシステムの構築に大学生や若い人たち、ちよカレ卒業生などを期待できないかと。



Ⅱ ちよだ生涯学習カレッジ 現状と今後のあり方について

【意見交換の主な内容】

- ① 事務局より
設立経緯、開校後の現状と今後のあり方について説明。
・九段生涯学習館の指定管理者選定にあわせた館業務への編入
・カリキュラム企画・運営に卒業生団体参画
- ② ちよだ生涯学習カレッジ事務局より
・2期目以降からの定員割れの理由は2年間での家庭環境の変化、内容が想像と違う等。第5期より1年間、区役所の中と連携した内容とした。卒業生の活動の場としてイベント、区の祭礼に参加し役割を担っていただく。展望として単発講座、カリキュラム内容に卒業生の意見を反映したい。
- ③ 卒業生有志団体より
・ちよカレ5年間のノウハウや第10・11期の委員会報告書にある貴重なデータをベースにした「生涯学習の理念や新たなリカレント教育」構想のための「検討会」立ち上げを提案したい。
・「検討会」は生涯学習推進委員会のメンバーに加え、区役所、外郭団体、ちよカレ卒業生有志、民間業者等の助言や提言を求め、幅広い意見や協力を募り新たな区民のためのカレッジのあり方を議論したい。
- 「ちよカレ」創設時に委員をしていた。定年後の活動の人が多いと想像したが、募集したところ2,30代の人が多かった。内容が期待と違うということに関しては、本に書かれていない情報を知る人や団体などにもっと触手を伸ばして発掘してほしい。
- 東京の中心部の千代田区なので、区内在住・在学にこだわらなくてもよいのではないか。近隣区でも結局千代田区に関心を持っていただけることになるので、カリキュラムの改革だけでなく、どう変えていくかを考え、運用・運営方法を検討していくことが大切ではないか。
- 区長に現状を説明したところ、生涯学習・リカレント教育の重要性を理解されるうえで「ニーズがあるか」など「リセット」して考えるかもしれないと回答をいただいた。リカレント教育にちよカレの要素が取り込まれるようにしていきたい。
- ある自治体で事業仕分けに関わったが、仕分けはデータをみる。数字を示していかないと納得されない可能性はある。

リレー随筆 「ずっと学び続けること。それが生涯学習」

清水 昌代

生涯学習という言葉聞いてイメージすることは、ずっと学び（関心を持ち）続けること。

私が今、学び（関心を持ち）続けているものは、浮世絵。浮世絵の魅力にはまり、作品集を見るだけでなく、浮世絵展や大学の社会人向けの講座、カルチャースクールの講座に足を運んだり、時間があれば浮世絵を眺めている。一枚の絵からその時代の背景、まちや人々の暮らしなどがわかり、想像するだけでもワクワクする。また好きなものを眺めている時間は、癒しの時間ともなっている。

千代田区内には浮世絵になっている箇所がいくつもあり、日々、学びと生活の場が一緒になっている。私にとっての千代田区は勤務地であるだけでなく生涯学習の場ともなっており、浮世絵が身近に感じられる場所でもある。人生（生活）の一部となり、生涯にわたって学んでいくものが生涯学習なのだと思う。



リレー随筆 「生涯学習…つづけたご褒美?！」

安田 郁子

参った。困った。どうしようもない・・・現在でも収まりの見えない新型感染症下で、音楽、特に合唱をしている我々はお手上げでした。

平成16年、いまから17年前に産声をあげた「ちよだの杜少年少女合唱団」。生涯学習の一環として、区に集う子供たちに本格的な合唱活動をと千代田区文化芸術協会の会員有志で立ち上げ、結成した月には千代田区のさくらサポーター発足式で初舞台を踏みました。その後、自主公演をはじめ、区の様々な行事に出演させていただき、そこで歌い続けてきた子供たちは、もう少年少女ではなく大学生や社会人に。これからも歌い続けたいからOBOG合唱団の活動を始めよう！と意気込んでいた矢先に昨年の緊急事態宣言。

世間では、それならネットで遠隔練習をしたり、生配信で演奏会をしたりということが始まりました。けれど、私にはしっくりきませんでした。なぜなら歌でも楽器でもアンサンブルは息を合わせることが最重要だからです。それには同じ空間を共にしていないとできません。特に合唱指導においては、歌っている表情、身体の使い方を観ることがとても大切です。

学校に通うこともできず、社会人になったのに思うように働けない。そんな気持ちに寄り添える場を作れないかとスタッフで相談して始めたのがFacebookです。以前から合唱団のページがあり、何かがあった時にだけ発信していたツールを利用しようということになりました。小さい子にはそれをメールで送って保護者の方から見せてもらいます。初めは元気でいようね、予防をしっかりしようね、頑張っってね、という言葉ばかり並べていましたが、ある団員の一言を思い出し、この際だから音楽理論の初歩を連載しようと、今では週2回の発信を続けています。

それが功を奏したのか、今年の成人の日、突然の電話。「今、何人かで集まってるんですが、先生、会えませんか?」・・・「もちろん!」

出かけた先に待っていたのは、振り袖姿の彼女たちとご家族のみなさんでした。幼稚園や小学校時代から成長を見守ってきた子たちの晴れ姿。生涯学習として合唱団を続けてきてよかったなと心底思った瞬間でした。



【編集後記】

第13期千代田区生涯学習推進委員会議は第3回を終えました。コロナ禍も1年を過ぎ、未曾有であった社会状況もさまざまな経験や取り組みを少しずつ重ね、生涯学習も現実の状況下、対策を取りながら学び合う力をつける努力が継続されています。

今回も、委員の自由意見を中心に掲載いたしました。お忙しい中リレー随筆をお引き受けいただきました清水委員、安田委員に、心から御礼申し上げます。次号エポックも、よろしくお願いたします。

【編集／発行】

千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL 03(5211)3632
FAX 03(3264)1466
E-mail shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp